



巻頭言：総合情報センターへの思い

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-08-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平紗, 多賀男 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/10916

総合情報センターへの思い

平紗 多賀男*

大阪府立大学には、大いに誇りうる新しい二つの施設がある。一つは総合情報センターであり、いま一つは先端科学研究所の新研究本館である。私は学外の方々に本学を紹介するとき、決まってこの二つの施設をPRすることになっている。この総合情報センターが、本学関係者の期待の中、2年余の工期を終えて、その特徴ある緑の三角屋根の姿を現して4年近くになる。その基本計画が策定されたのが1988年であり、構想のための準備委員会が設置されたのは1983年であった。学内で設置について検討が始められたのは、更にその数年前であるから、かれこれ15年越しの念願の施設である。

本学の旧附属中央図書館（現コミュニティ棟）は1961年に建設され、以来、教職員・学生に学術文献の提供など、教育・研究に大いに貢献してきた。また、計算センターも1971年から工学部7号館において、科学技術計算、情報通信の処理や管理にと、図書館同様、重要な使命を果たしてきた。しかし、情報化社会の到来に伴い、図書館、計算センターはともに、スペースはもとより、機能的にも限界に達し、これらの改善のためには抜本的な対策を講じる必要に迫られていた。

この機会に、「情報」という資源の活用を共通項目にして、図書館と計算センターが緊密な連携を図れるよう、また有機的に運営できるようにと、いわゆる総合情報センター構想が持ち上がった。この構想は当時としては本学独自のもので、その計画の成り行きについて多くの大学関係者から注目されていた。この総合情報センターは、図書館と計算センターの二つの独立部局の単なる空間的合体にとどまることなく、「情報」をコアとする新しい創造的活動の場を設けるという理念に基づくものであった。しかし、当時学内にはこの構想に対し、長老教授を中心に、「大学にとってシンボリック的存在である中央図書館の名称が消えてなくなるとは、何事であるか」と、かなり強い反対もあった。

この構想における総合情報センターが果たすべき機能として、当時最も期待されたのは次の3点であった。

- (1) コンピュータ、ニューメディア利用による広域情報通信ネットワーク・システムおよび学内LANを構築し、全学の総合的な情報通信処理および管理を行いうる情報についてのセンター的機能。
- (2) 快適な環境に包まれ、質の高いレファレンス機能および総合的なデータバンク機能をも併せ持つ学術情報図書館。
- (3) 開かれた大学として、研究成果の公表、学術情報交流、生涯学習支援および文化的催物の開催など、国際および地域社会に貢献しうる機能。

* 大阪府立大学長

(1) の機能の充実は、本学にとって現在も最重要課題である。多額の予算が必要であるが、是非とも設置者のご理解を得たいと願っている。昨今の情報化への進展はまことに凄まじい。アメリカでは一般企業においてさえ、サイバースペース（電脳空間）にどっぷりと浸っているようだ。インターネットをベースにした企業内情報システム「イントラネット」によって、企業グループの世界中のオフィスが一体化されている企業も多いと聞く。我々も安閑としてはおられない。

(2) および (3) については、金子所長はじめ、総合情報センター関係者の不断のご努力によって、着実に充実してきている。本学の蔵書は100万冊を越え、図書、学術雑誌のデータベース化も進み、アジア資料コーナーも整備されている。Uホール白鷺では、国内外の学術セミナーも数多く開催され、毎年秋季の土曜日の府民講座、またサンクト・ペテルブルグ交響楽団の演奏会など、開かれた大学としての役割を果たしている。冒頭に述べた誇りうる施設の所以である。

ところで、「情報」という単語はなかなか含蓄のある日本語だと、私は思う。その意味するインフォメーションは「報」だけで充分表されているはずである。「情」とは、データが並んだ客観的で無味乾燥なインフォメーションではなく、発信、受信する人間が、その情報を「どのように感じるか」ということを含んだものでありたいと思う。

ミスター・インターネットと俗称される慶応の村井 純さんは、「インターネットは人間が高い所にあるブドウを取るための踏み台。だれもが平等に、当たり前利用できる道具にするには、全世界に広がる必要がある」（インターネット、岩波新書）と述べておられる。これから迎える高度情報化社会が、人間を主人公にして、広く情報を気軽に、容易に、誰もが利用できる、そういう社会であることを心から願っている。